

『2016 年度学生生活実態調査報告書』刊行にあたって

本書は、学生センターが 2007 年度から毎年実施している「学生生活実態調査」の 2016 年度報告書です。毎年ほぼ同様の質問項目を設けていますので、これをたどることによって法政大学における学生生活の変化を知ることができます。この生活実態調査からみえてくる学生センターの課題について少し見てみたいと思います。

まず、学生によるサークル活動ですが、2016 年度には 66.7%、3 人に 1 人がサークル活動に参加しています。2007 年度にサークル活動に参加していると答えた学生は 57% でしたのでサークル活動に参加する学生は確実に増えています。しかし、1 週間のうちでサークル活動にかかる時間を問うと、2007 年度には 3 時間未満と答えた学生が 35.6% であったのに対し、2016 年度は 41.9% と増えています。このことは、サークル活動以外にアルバイト等に割く時間が増えていることを意味することになるかもしれません（残念なことに学生の 1 日あたりの自習時間は減少しています）。そのアルバイトですが、87% の学生がほぼ年間を通じてアルバイトを行っており、約 50% の学生が 1 か月 50 時間以上働いています。いずれにせよサークル活動に参加する学生が増えると活動場所の確保などの問題が発生することにもなります。

大学入学後ボランティア活動を行ったことのある学生は 2016 年度に 19.4% でしたが、2007 年の 14.9% に比べ増加していることがわかります。また、ボランティアの経験のある学生は学年別で見ると 1 年次には 9.3% であったものが 4 年次には 34.7% まで増えており、大学卒業時点では 3 人に 1 人が何らかのボランティア経験をもって卒業していることがわかります。キャンパス別で見ると、多摩キャンパスが高くなっていますが、これは多摩の学部の特性が作用していると考えられます。今後ボランティア活動に参加する学生は増えることが予想されますが、それにつれボランティアセンターの役割も大きくなっていくことは間違いないと思われます。

2016 年度に全学生の 24.3%、4 人に 1 人が奨学金をもらっており、その金額は 5 万円が 30.6%、10 万円以上が 22.5% と 2 つのピークがあることが判ります。この奨学金の使い道は、学費（82.7%）、食費（20.6%）、通学費（20.0%）、図書・教材費（16.3%）となり、アルバイト代の使い道で最も多い娯楽・交際費は 5.4% に過ぎません。その意味では、奨学金としては健全な使い方をしているとみることができますが、勉学に必要なとされる図書・教材費の比率が少なく、生活に関わる使い道が多いのは経済的な負担が重くなっていると考えられます。特に多摩キャンパスでは交通費が 24.1% となっており、学費に次ぐ比率を占めています。キャンパス特有のバス問題が学生の肩にのしかかっていることをうかがえる数値です。多摩のバス問題の解決は焦眉の課題ですが、学生センターとしても経済的支援の奨学金支給を手厚くしていくことが求められていると考えます。

学生相談に関しては、学生相談室で心理カウンセラーが相談に応じていることを知って

いる学生は 57.3%となっており、2007 年度の 46.6%に比べると学生相談室の認知度は確実に上昇しています。その一方で、悩みや不安がある学生で相談相手として学生相談室等を挙げている学生は 2007 年度の 3.4%から 2016 年度の 4.4%まで、わずかしか上昇していません。その意味では学生相談室の利用者を増やすことが望まれますが、カウンセラーの負担はすでに限界に近いものがあり、相談内容についての判断などを考慮しつつ、適切な相談に応じることが今後の課題となると思われます。

さて、「学生生活実態調査」から学生生活の一面をざっと俯瞰してみました。今後の学生支援の基礎資料の 1 つとして、本調査がお役に立てば幸いです。

2017 年 2 月
学生センター長 横内正雄